

OPINION

私はこう考える

益子邦洋

日本医科大学千葉北総病院救命救急センター長・日本医科大学救急医学科教授

1948年、茨城県出身。1973年、日本医科大学卒業。以後、同大学・同大学付属病院にて救急医学、外傷外科学、救急医療体制などについて専門に研究。1999年より千葉北総病院救命救急センター長。2004年より日本医科大学救急医学科教授。ドクターヘリの普及にも力を尽くす。日本版CIREN(米・国家高速道路交通安全部局が管理する自動車事故と人身傷害の調査プログラム)の構築も提案。

警察・消防・医療機関が 共同で事故データを検証

救急医療と外傷診療のスペシャリストである益子さんは、「交通事故による死者を減らすには、クルマ・道路・人に医療を加えた『4本柱』で取り組むべき」が持論である。「交通事故で怪我をした人は最善の医療を受けているはず、と思われていますが、交通事故の救急医療の現場にもまだまだ問題があります。ここに目を向けなければ、助かる命も助かりません」。

実際にどんな問題があるのか。益子さんの勤務地である千葉県では、有識者や関係機関等で構成する「千葉県交通事故調査委員会」を組織し、警察や消防、医療機関とが共同で調査研究を行っている。まず、平成16年に千葉県内で発生した交通事故死332例(24時間内死亡)について交通事故死事例調査を実施。その結果、119番通報から病院到着までに30分以上かかった例は49%もあるとわかった。また、現場での予測生存率が50%以上の傷病者

を、①病院到着時にも予測生存率が50%以上だった群と、②到着時には50%未満となった群と比較したところ、病院到着までの平均時間が①は30分、②は43分だった。つまり、30分で到着できれば、50%以上の可能性が高いというデータが出たのである。

「救命の鍵は、怪我をしてから1時間以内のゴールデンアワーに手術などの根本的処置を開始できるか否かにかかっています。手術前には検査や処置が必要なことから、30分以内の病院到着が必須。約半数が30分以上という結果は、たいへんな問題です」。

平成17年には、「防ぎ得た外傷死亡(以下PTD)」に関する調査検討を行っている。332例中、救急隊が現場到着した時に生命徴候を示した96例(80歳未満)についてマイクロ調査を実施。調査担当者が受け入れ先病院を訪問して聞き取り調査を行い、外傷診療の専門家による第三者評価を受けた。

その結果、PTDの可能性あり29例、PTD19例と評価された。これは交通事故死亡332例の14.5%で、少なくとも7人に1人は救えた可能性が明らかになった。さらに要因分析では、診断・治療の遅れなどの問題点が細かく指摘された。

外傷に特化した医療機関の整備が望まれる

千葉県ではさらに調査を進めるとともに、具体的な改善を検討するための委員会の設置も準備されているという。PTDを



千葉県ではさらに調査を進めるとともに、具体的な改善を検討するための委員会の設置も準備されているという。PTDを

減らすためのポイントは3つある。「The right patient in the right time, to the right place」——救急隊が現場で負傷者の怪我が重篤なか中・軽度なかを見抜き、適切な時間内に、しかるべき専門医の治療を受けられる病院に運ぶことである。平成14年の厚生労働科学研究で「救命救急センターに搬送され死亡した症例の約4割弱はPTDの可能性」と発表してから、日本の外傷医療体制は急速に整備が進んだと益子さんは説明する。

まず、1つめのポイントに対しては、救急隊員のレベルを上げるための「外傷病院前救護プログラム(PPEO)」が始まっている。2つめの搬送時間の短縮には、ドクターヘリの導入が進む。平成19年には「ドクターヘリ法案」が国会で可決され、全国配備の推進も決まった。

3つめは「しかるべき医療機関の整備」だが、これに関してはまだこれからといえる。高次医療を行う機関として「救命救急センター」が指定されているが、「救命救急センターはあらゆる救急患者を受け入れていて、必ずしも交通事故の外傷治療が得意とは限りません。どんな重篤な外傷患者にも即座に対応できる医師と設備が整う「外傷センター」を整備すべき」と、益子さんは呼びかける。さらに「外傷登録データ」と(財)交通事故総合分析センターの交通事故データをマッチングさせた「人体傷害データベース」の構築も進めたいと語る。

益子さんは「まずは千葉県をモデルに、各地域において警察・消防・医療機関が協力し、事故発生から診断・治療までのデータを蓄積してほしい」と提案する。PTDの要因分析をハッシングの材料にするのではなく、「少しでもいい体制にするために努力しましょう」という約束で取り組むことが大切です。

※1 外傷機械的外力により身体の形態的、機械的な障害を受けること。交通事故やスポーツ中の事故、歩行中の転倒、刺傷など外因性の怪我を医学的に外傷と呼ぶ。
※2 PTD=Preventable Trauma Death 防ぎ得た外傷死亡

VOICE

読者の声

ご愛読者の皆様へ：SJに対するご意見・ご感想をお寄せください！
SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、日頃よりご愛読いただいている読者のみなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。SJへのご意見・ご感想は下記のメールアドレスへ。
sj-mail@ast-creative.co.jp ※弊紙に対する個別のご質問には回答できかねる場合がございます。あらかじめご了承ください。 ※調査協力等のためにご連絡をさせていただく場合があります。

★今月号のVOICEは、「DOCUMENT EYE ファイルボックス⑥」をご活用いただいている学校の先生の声をうかがいました。

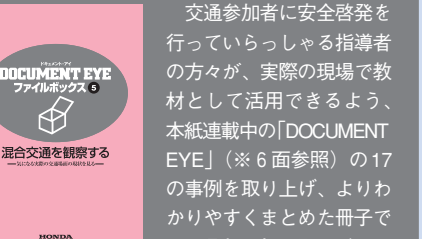
生徒にとっても交通安全は身近な問題

丸山健一さん(北海道) 北海道戸井高等学校 教諭
本校では、毎年4月に地元の警察署の講師を招聘し、本校の体育館で交通安全講話を行っています。今年度は、講話の後に全校生徒を前庭に集め、校庭に設置してあるホールへ、各クラスの交通安全委員が生徒会長の「交通安全宣言」を読み上げながら、「交通安全旗」を掲揚し、事故が発生しないように一人ひとりが交通安全を誓い合います。また、ホームルームでは、各担任から適宜指導を行っています。歩行者、自転車、シートベルトなど取り上げる内容は様々です。特に、高校生の自転車マナーの悪さが言われているので、二人乗りや無灯火、歩道での並列走行、携帯電話を使用しながらの走行の危険性などを「資料や自分の体験談など」を通じて、強調し訴えております。交通安全の話題を出す、生徒が実際にヒヤリとした経験などを口にします。生徒の生の声から、

教師・生徒、それぞれが主体となって交通事故の防止を呼びかける

上嶋恵美さん・小林祐貴さん(三重県) セントヨゼフ女子学園高等学校 教諭
生徒の交通事故を防ぐために、今年度は、教師、生徒それぞれが中心となった活動が行われました。教師主体の活動は、主に3つ。1つは、日常的な交通安全指導です。重要な情報は学校で共有し全体指導、事故報告があった生徒や通学マナーが気になる生徒には個別指導と、内容に合わせて指導を行います。2つ目は、ロングホームルームの時間を活用した交通安全指導で、毎年4月に行います。主に通学時のルールやマナーの指導が中心です。3つ目は、教師による街頭指導。毎月10回程度、各教師が持ち回りで朝・夕の生徒の通学状況を観察し指導しています。指導の際には、相手の立場になって考えることや命の大切さを伝え、そのメッセージが心に響いて、行動の改善につながっていくように心がけています。一方で、安全委員会の生徒が中心となって、7月と12月の長期休業前に全校生徒に交通安全を呼びかける活動も行われました。標識などのクイズや、事故の危険性やマナー向上を訴えるビデオを制作し上映しました。生徒が主体となった活動は、教師の指導とは違った良さがあり、意識面での向上が見られたように感じます。本校では自転車や歩行者の指導が中心です。そのため、自転車の走行状況が掲載された「DOCUMENT EYE」ファイルボックス⑥を希望しました。これからも実際の指導に活かせる情報や具体例をさらに紹介していただけたらうれしいです。

「DOCUMENT EYE ファイルボックス⑥」 ご希望の方に無料でお分けします



交通参加者に安全啓発を行っているいらっしゃる指導者の方々が、実際の現場で教材として活用できるよう、本紙連載中の「DOCUMENT EYE」(※6面参照)の17の事例を取り上げ、よりわかりやすくまとめた冊子です。現実の交通場面を知り、事故を未然に防ぐためのアドバイスが出来るようにさまざまなデータを加えました。ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者の交通行動の特徴が掲載されています。本紙2007年11月号でご紹介したところ、たくさんの方からご応募いただきました。ありがとうございました。ご好評につき、再度無料でお分けいたします。ご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、使用用途もしくはSJへの感想を明記の上、下記のFAXまたはメールアドレスにお申し込みください。<お申し込み先> (株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係 FAX: 03-3405-1310 e-mail: sj-mail@ast-creative.co.jp ご不明な点はTEL: 03-3405-1191までお問い合わせください。 ※「DOCUMENT EYE ファイルボックス⑥」は、下記ホームページアドレスからPDFファイルにて全ページご覧いただけます。 <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/documenteye/>